

# 世界経済不透明下の投資の原則は分散とリスクヘッジ。その中で金の果たす役割は大きいです

森田アソシエイツ代表の森田隆大氏はムーディーズ・インベスターズ・サービス社格付アナリスト、ワールド・ゴールド・カウンシル日本代表などを歴任されている。その森田氏に投資環境不透明下での金の役割と格付についてお話を伺った。

## 世界的な不透明局面で注目を集める金相場

——11月8日の米大統領選挙直後には日経平均株価が1000円以上も下落する中で、金相場だけが値上がりしました。森田代表はワールド・ゴールド・カウンシルの顧問でもあるわけですが、まずは金相場からお聞かせください。

**森田** 金価格は2016年に入り、日銀のマイナス金利政策もあって急激に上昇しました。金価格を持ち上げたのは機関投資家の投資需要です。これまでは実物である消費需要が中心でしたが、投資需要で価格が急上昇したことから消費者のほうは逆に様子見となっています。実物資産の裏付けのある金ETFの残高を時系列でとらえると、リーマン・ショック後に急激に伸びています。これは逃避資金によるものです。その反動から2015年暮れまで減少が

続いたのですが、年明けから急増し、10月以降も増加傾向にあります。背景には、マイナス金利の導入によって機関投資家が買える債券が少なくなり、資産分散効果に不都合が出てきたことがあります。

これは、長期投資を行う年金や保険などの機関投資家全体にいうことです。ポートフォリオ全体の安定性を考えたとき、債券の役割が低下したことによって、代替として金投資に向かったのです。このアセットアロケーションの転換はすでに行ったところもあるし、これからというところもあります。ですから、今後も金の投資需要は続くものと思われれます。

——なるほど。マイナス金利でポートフォリオの構造に変化が起きているわけですね。

**森田** 大統領選の開票当日はともかく、トランプ当選で株価が上がっていますが、金価格はそれほど下がっていません。昔の

森田アソシエイツ代表  
ワールド・ゴールド・カウンシル顧問

森田隆大